

一瞬にして二つの都市を破滅させた広島・長崎への原爆投下から69年が経とうとしています。今なお多くの方々が、苦しんでおられる現実に胸を痛み、核兵器の根絶を願わずにはられません。

核兵器廃絶の声の高まりとともに世界は、核軍縮に向かいつつあります。しかし、一方で、世界の核保有国は、核軍縮に誠実に取り組む姿勢を見せず、なお何万発もの核兵器が、人類の生存を脅かしています。また、宗教や人種の対立から地域紛争も後を絶ちません。

核兵器によってもたらされた痛み、苦しみを体験した広島・長崎の方々とともに、私たち日本人は心をつにし、世界に核兵器廃絶を訴えていかなければならないと思います。「核兵器も戦争もない世界」の実現こそが、原爆の悲劇を体験した、私たち日本人の願いなのであります。

私たちは、歴史の教訓に学び、恒久平和の理念の下、「核兵器のない世界」、「争いのない平和な世界」が実現されますよう願いを込め、原水爆禁止 2014 年世界大会への、激励のメッセージとさせていただきます。

平成 26 年 7 月 3 日

岐阜県土岐市長 加藤靖也